

# SEEDS



知床財団

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

No.214  
2012 / 春号

>>春の知床の素敵な出会い

キューミンガに恋する 知床の春

>>知床財団の活動レポート

ボランティアとインターナン

>>知床・人・インタビュー 第12回

ウトロ駐在所 川島清さん

>>知床財団 用語辞典 第1回

まぎらわしい編・かわいらしい編

>>テンチョウのつぶやき 第13回

絶賛営業中

>>スタッフは見た！

ウトロ漁港に人間UFOキャッチャー出現

## ボランティアさんの1日



### 知床で「働く」 ～ボランティア～

## ボランティアとインターン

～知床で「働く」「学ぶ」ふたつの人材～

ここでは2011年秋に開催されたボランティア合宿「知床森づくりの日・秋」の一例を例にその活動をご紹介します。

起業 8:30

全国各地から集まった7名のボランティアの方々は、銘々の思いを胸に森づくりの現場へと、いざ出発！

9:00



この日は「防風柵」の設置作業。知床の強い風から苗木を守るために柵を作ります。一から穴を掘って、柱を立てて、板を張るという結構な重労働です。

12:00



昼食を終え、作業再開。だんだんとチームワークも良くなり、みんなで木の柵が出来上がっていくま

13:00



す。

16:00



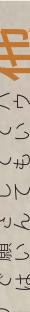
夕食のメニューはジンギスカン。コップを片手に森づくり談義が始まります。これからが本番！

17:00



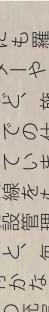
就寝

19:00



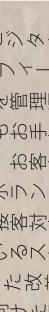
宿に到着。近くの温泉で1日の汗を流してから、みんなで夕食の支度です。ひとつ屋根の下で寝泊まりし、同じ釜の飯をついての共同生活です。

20:00



どんどん夜も更け、後片付けをして適當就寝、翌日の作業に備えます。本日もおつかれさまでした。明日もよろしくお願いします！

21:00



ボランティアからひとこと

（神奈川県茅ヶ崎市在住 田中正雄さん）

## ボランティアとインターン

～知床で「働く」「学ぶ」ふたつの人材～

文 - 自然復元係 松林良太 |

**私** たちは日々知床の自然活動を進めています。しかし、その職員数はわずか30名足らず。私たちだけで出来ることがあります。また、知床の現状や私たちが実際にどんな事に取り組んでいるのかを伝えていくにも限界があります。

そこで私たちの活動を支えてくれているのが、全国各地から集まってきたたくさんの幅広い世代のボランティアや、インターンの方々です。

作業をお手伝いいただくマニアパワーとしてだけではありません。ここで見たことや感じたことを語つてから、わざりの人たちは伝えてくださるところが、私たちの活動を多くの人に知ってもらうきっかけになってしまいます。

それでは知床財團の貴重な財産ともいえるボランティアやインターンの方々に、実際にどんな事をしていたらいいのか、ご紹介します。

**ボランティア** たちは日々知床の自然活動を知り、守り、伝える活動を進めています。しかし、その職員数はわずか30名足らず。私たちだけで出来ることがあります。また、知床の現状や私たちが実際にどんな事に取り組んでいるのかを伝えていくにも限界があります。

そこで私たちの活動を支えてくれているのが、全国各地から集まってきたたくさんの幅広い世代のボランティアや、インターンの方々です。

作業をお手伝いいただくマニアパワーとしてだけではありません。ここで見たことや感じたことを語つてから、わざりの人たちは伝えてくださるところが、私たちの活動を多くの人に知ってもらうきっかけになってしまいます。



## インターン

インターンとは学生向け就業体験のことです。全国各地の学生の方に私たちの様々な仕事を経験してもらいます。その知識や体験を今後の学業や進路に活かしてもらい、さらに将来の就業や進路に活用する意図があります。将来的には知床、日本あるいは地球上の自然を守り伝えていく人材にならってほしいと願っています。

**他** にも羅臼レジターセンターや五湖フィールドハウスなど、施設を管理運営していく上での仕事もお手伝いしてもらっています。お客様と一緒に施設管理や接客対応をお願いする、毎日いるスタッフサービスの充実に向けた改善点などを一緒に話し合っています。スタッフが教えられることがたくさんあります。



ボランティア中の  
田中さん

## ボランティアからひとこと

「夏は知床五湖でお客さんの案内係。冬は森づくりでシカ柵の修理など、毎日違った体験は、新鮮でワクワクドキドキの連続でした。今度はまだ未体験の知床の私も知りたいので、また来ます。50年、100年後より良い知床を夢見てこれからもボランティアを続けていきたいと思います。」

知床で「学ぶ」  
～インター～

**昨**年度は11の学校  
から計15名の学生  
生さんたちをインターナショナルとして受け入れました。  
期間は2ヶ月間で、夏休みや冬休みを利用  
して、私たちの様な仕事を体験してもらいました。

## 2011年度受け入れ実績

- 帯広畜産大学（2名）  
グエルフ大学（カナダ）（1名）  
武藏野美術大学（1名）  
東京環境工科専門学校（1名）  
東京農業大学（1名）  
東京農工大学（2名）  
日本大学（1名）  
福井工業高等専門学校（1名）  
北海道大学（1名）  
明治大学（1名）  
琉球大学（3名）



管理  
護管  
保

三三

ヒゲマの侵入を  
どこへは...



A photograph showing two individuals at a boat deck. One person, wearing an orange waterproof jacket and red gloves, is holding a long wooden stick or probe over the water. The other person, wearing a white shirt and red gloves, is seated nearby. They appear to be engaged in some form of scientific or survey work on a boat.

集中 売り

## 森林再生 は... えは... い草木を育てている草木の除草作業

たとえば… 来館者対応

## 森林再生 とえは... 草木を育てている草烟の除草作業

苗畑の苗木たち  
に雑草に負けず立  
派に育つてもらう  
ための除草作業<sup>100</sup>  
ル運動で守られた  
開拓跡地にもども  
とあつた森を取り  
戻すための森づく  
り作業のひとつで  
す。



カウンターで観光客の方の質問に次々と答えるのも知床財団の大仕事のひとつです。うつむかのバクトルの感覚もまた、トト羅のつぶやき。

接床国立公園の入口での接床は、いわば知床の顔！笑うことともに、知床を伝える出口としての自覚を持った

管理營銷

A person wearing an orange jacket and a grey beanie is using a long-handled snow shovel to clear snow from a sidewalk. They are standing next to a building entrance with a metal gate. The ground is covered in snow, and there are some yellow caution tape markers on the ground.

私たちの日々の活動の多くは、柵の修繕作業や施設のまわりの草むしりなど地這な作業の繰り返しがです。しかし、こうした作業が重々重要なことで、今ある知床の素晴らしさが自然が未来へと引き継がれていくことにつながるのです。

私たち一人一人がその一端を担いでいただけ。これでも知床を愛し、知床財團を応援していただけたらうれしくも。そして、知床財團で得た経験を生かしてそれぞれのドームでアピールしていく所存です。

仕事の合間に見る知床の  
山々や海はまだ始まりです。  
皆さんのお越しを知床でお  
待ちしております。

仕事の合間に見る知床の  
山々や海はまだ始めて。  
皆たんのお越しを知床でお  
待ちでいるね。